

令和7年度 第3回 鳥取市総合企画委員会

日 時 令和7年11月25日（火）13：30～15：00

場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6－5～6－8

出席委員 石本昭雄委員、大橋祥子委員、岡大輔委員、奥谷仁美委員、尾坂亮委員、
岸本夕子委員、久野壯委員、佐分利育代委員、下田敏美委員、竹本哲哉委員、
前岡美華子委員、山崎昌史委員、山下浩二委員、山根滋子委員、米田恵子委
員

欠席委員 田中丈士委員、田中利明委員、林由紀子委員、平井耕司委員、吉田高文委
員

鳥 取 市 市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、地方創生推進室（事務局）

<議事概要>

1. 開会

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

本日は大変お忙しい中、本年度第3回目となる総合企画委員会にご出席いただき感謝申し上げます。委員の皆さまには、日頃より鳥取市政の推進に格別のご理解、ご支援、ご協力を賜っていることに、改めて感謝申し上げます。

昨年5月29日に第12次鳥取市総合計画の策定について諮問を行って以来、現在まで委員の皆様幅広い分野にわたりご審議、ご議論を重ねていただいた。前回の8月26日の第2回会議においてご検討いただいた内容を踏まえ、修正した計画案をもって9月24日から10月20日まで市民政策コメントを実施した。

本日は、この市民政策コメントで頂いたご意見とそれに対する本市の考え方について報告するとともに、これらを踏まえて修正した第12次鳥取市総合計画（答申案）と、鳥取市地方創生アクションプラン（案）を提示したい。本日で議論、ご審議いただき、この計画案をもって明日答申いただき、来る2月定例市議会に上程したいと考えている。

また、現在各部局において、第12次鳥取市総合計画を進めていく具体的な内容を盛り込む実施計画の作成を進めるとともに、令和8年度の予算編成作業を行っている。実施計

画については改めてお示ししたい。

皆さまと一緒に作り上げてきたこの計画を基に、鳥取市の明るい未来を描き、その実現に向けて市民の皆さまと一緒に行動し、まちづくりに取り組んでいきたい。

本日は、委員の皆さまの忌憚のないご意見を賜るようお願い申し上げ、開会の挨拶とする。

3. 委員長挨拶

林委員長、平井副委員長が欠席のため、本会議の議長として下田委員を選任することを出席委員に諮り、承認された。

【下田議長】

本日は、第2期鳥取市創生総合戦略とデジタル田園都市国家構想交付金事業の令和6年度実績について、また、昨年度から委員の皆さまにご意見を頂いてきた第12次鳥取市総合計画（答申案）及び鳥取市地方創生アクションプラン（案）についてが議題となっている。特に第12次鳥取市総合計画（答申案）は、これまで委員の皆さまから頂いたご意見が可能な限り反映されているものと思われる。

本日の会議をもって、本委員会の答申として深澤市長にお渡しすることとなる。最後の確認をいただき、ご意見を賜りたい。

4. 議事

（1）第2期鳥取市創生総合戦略の令和6年度実績について

（2）デジタル田園都市国家構想交付金事業の令和6年度実績について

【西田地方創生推進室長】

資料1をご覧ください。これについては前回の総合企画委員会において、速報版として内部評価と委員の皆さまによる外部評価の結果を報告した。その際に外部評価が未実施であった部分について改めて評価いただいたので、ご説明させていただく。

資料1の17ページ、No.55および19ページのNo.63は同じ指標であり、鳥取県が発表する鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺の年間観光入込客数である。これが達成率108.9%であり、委員の皆さまの評価が「①計画どおり」となっている。

続いて20ページ、No.69「麒麟のまち圏域への観光入込客数」である。これが達成率88.6%であり、委員の皆さまからの評価が「②ほぼ計画どおり」となっている。

続いて29ページ、No.109「医療・介護事業者連携達成度指数の平均値」は達成率が96.9%であり、委員の皆さまの評価は「②ほぼ計画どおり」となっている。また、同じページのNo.114「介護保険施設職員の平均充足度」について、これは市内介護保険施設の職員の募集人数に対する採用人数の割合であるが、達成率が106.6%であり、委員の皆さまの評価が「①計画どおり」となっている。これらの評価結果を踏まえ、1ページに達成状況を集計している。未評価分を加えると外部評価の「①または②の割合」は若干上昇した。

資料1の31ページ以降に、評価に当たり委員の皆さまから頂いた89件のご意見・ご質問及び担当部局の回答、また、105件のご感想を掲載している。これらの内容については口頭での説明は行わないので、お読み取りいただきたい。なお、頂いたご意見等については、この回答のとおり今後対応を進めていくこととしている。

続いて、資料2をご覧ください。これも前回の総合企画委員会において報告したが、評価に関連して委員の皆さまからご意見・ご質問等を頂いており、質問に対する各部局の回答と合わせて、事業シートの最後に掲載している。これについても本日、口頭での説明は行わないので、お読み取りいただきたい。

（3）第12次鳥取市総合計画（答申案）及び鳥取市地方創生アクションプラン（案）について

【西田地方創生推進室長】

資料3をご覧ください。市民政策コメントについては、9月24日から10月20日までの27日間実施し、5名の方から計15件の意見等を頂いた。頂いた意見を資料3に集計している。意見に対する対応方針として、「意見を踏まえ修正したもの」、「意見の内容は既に盛り込み済みのもの」、「今後の参考とするもの」、「その他」という整理をしている。頂いた意見は、総合計画に関するものが14件、地方創生アクションプランに関するものが1件である。総合計画については、基本構想に関して1件、基本計画に関して13件の意見を頂いた。これら意見によって修正をしたものはない。盛り込み済みであるものが5件、参考意見とするものが8件、その他が1件である。2ページのアクションプランに対する意見は1件であり、これは盛り込み済みとしている。

3ページは意見等の内容とそれに対する市の考え方をまとめたものであり、主なものを紹介する。また、合わせて資料4の総合計画（答申案）もご覧いただきたい。

まず3ページのNo.1は基本構想の策定趣旨に関する意見である。内容は、人口減少や少子化は悪いことばかりではなく、都会とは異なる暮らしやすさや豊かさ、社会保障の効率化やAI・ロボットによる業務代替の推進など前向きな面もあること、将来的な労働人口の変化に伴い業務構造の変化も考慮することが望ましいというものである。これに対する対応方針は盛り込み済みとしており、市の考え方は、総合計画（答申案）の16ページ、まちづくりの基本的な考え方の部分に示している。鳥取市は人口減少や少子高齢化などの課題がある一方で、都会とは異なる暮らしやすさを有していることから、本計画では、まちづくりの基本的な考え方の最後の段落で、自然・歴史・文化などの固有資源の活用や、培われてきた様々なつながりづくりを発展・充実させ、まちづくりを進めていくことを明記している。また、人口減少による労働力不足への対応や働き方改革については、総合計画（答申案）15ページの「時代の潮流」の⑤地域経済の成長軌道への転換と地域活力の創出の中で、求められる取組として掲げており、この考えの下で取組を進めていく旨を回答している。

続いて、4ページのNo.5は基本計画の基本施策「人権尊重社会の形成」に関連する意見であり、総合計画（答申案）の56、57ページに関係する。高齢者世帯が増え、その先には独り暮らしの生活が待っており、避けて通れないのは孤独死である、町内の人と普段から仲良くし、関わりを持つことが大事である、という内容である。これに対する対応方針は盛り込み済みとし、市の考え方は、孤独・孤立の問題が今後さらに深刻化していくことが懸念されていることを認識した上で、鳥取市では、生きづらさを抱えた当事者のSO Sに気づき、適切な支援につなげる人材となり得る「つながりサポーター」の養成に取り組んでいる。また、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを設立し、当事者の状況に応じて多様なアプローチや手法により対応していくこととしている。

続いて、6ページのNo.10は基本施策「協働のまちづくりの推進」に関するもので、総合計画（答申案）の64、65ページに関係する。ボランティア活動をしたいやる気のある人がいるのに、どうしてよいか分からないことがある。例えば市役所に活動する課のような部署をつくり、小さなグループで動きたくても動けない方々に集まってもらい、活動の手伝いをしてはどうか。行政も住民と共に行動を起こさなければ、住民任せでは進まない、という内容である。この意見に対し、対応方針は盛り込み済みとしている。市の考え

方は、鳥取市ボランティア活動センターにおいてボランティアマッチングに取り組んでおり、ボランティア活動の支援を施策の取組に明記している、という回答をしている。

続いて、8ページのNo.15は地方創生アクションプランへの意見であり、資料5のアクションプラン24ページ、基本目標Ⅲ－1「こどもが輝き、若者・女性が活躍するまちづくり」に係る。こどもや若者・女性に限定した表現は男性が対象外と受け取られかねない、支援は年齢やジェンダーを問わず行ってほしい、その上で女性や若者が直面しやすい課題に配慮するのが望ましい、というものである。これに対し、対応方針は盛り込み済みとしている。市の考え方は、各種支援は性別や年齢を問わず、一人ひとりの実情やニーズに応じて行うことが必要であるとした上で、全国的に地方から都市部への転出超過が拡大し、特に若者や女性の転出が多い状況を踏まえ、基本目標の一つとして「こどもが輝き、若者・女性が活躍するまちづくり」を掲げ、若者や女性に選ばれるまちを目指して取組を進めていく旨を回答している。

続いて、資料4-1をご覧ください。市民政策コメントを受けての修正はなかったが、内容を再度見直した結果、修正が必要と判断した部分について修正を行っている。ページ下部の基本施策「教育の充実・郷土愛の醸成」に関するものは、総合計画（答申案）の40、41ページに係る。41ページ右下の「みんなでとりくむ」の部分について、修正前は市民と事業者の役割を分けて明記していたが、市民と事業者を分けず、市民・事業者ともに取り組むという形に内容を集約した。

続いて、資料4-1の2ページの上部は、基本施策「健康づくり・疾病予防・介護予防の推進」に関するもので、総合計画（答申案）の52、53ページに係る。施策の体系の単位施策「Ⅳ．介護予防・フレイル予防の推進」の取組の部分について、修正前は「高齢者の健康寿命の実現」という表現としていたが、取組の一つとしての「健康寿命の実現」は範囲が広すぎるため、「高齢者のフレイル対策の充実」という表現に修正している。また、同じ箇所、修正前に「高齢者の地域での交流促進」という取組を挙げていたが、「高齢者の集いの場の拡充」と表現が重複し、取組が重なっていることから、「高齢者の集いの場の拡充」に集約している。

次に、資料4-1の3ページ、基本施策「協働のまちづくりの推進」に関するもので、総合計画（答申案）の64、65ページに係る。これは前回の総合企画委員会で委員から意見を頂いており、その意見を踏まえて検討した結果、修正するものである。意見の内容は、公民館を物理的な施設としてだけでなく、各種施策やネットワークの結節点とし

て重要なソフト機能を持たせることを施策に位置づけてはどうか、というものである。これに対する市の考え方は、地区公民館がまちづくりの拠点であり、地域活動の拠点であることを明記するため、65ページの施策の体系の単位施策「Ⅰ. 参画と協働のまちづくりの展開」の取組の一つとして、「地区公民館を拠点としたまちづくりの推進」を追加している。

続いて、資料4-1の3ページ下部は、基本施策「循環型社会の形成」に関するもので、総合計画（答申案）の96、97ページに関係する。施策の体系の単位施策「Ⅲ. ごみ減量化の推進」の取組について、修正前は「資源物の再資源化の推進」という項目を挙げていたが、これは「ごみの分別とリサイクルの推進」という取組に包含されるため、「資源物の再資源化の推進」という項目を削除している。

総合計画の修正は以上の内容である。この修正を反映した答申案について、本日意見等をいただき、修正が必要であればこの場で修正を行い、明日答申いただく総合計画（案）とされたい。なお、資料5の地方創生アクションプランは、前回からの修正はない。

〇市政全般についてご意見

【石本委員】

計画については、今後、その達成に向けて市全体で努力するだけであると思うが、1点だけお願いがある。総合計画（答申案）の23ページに「計画の進行管理」という項目があり、PDCAサイクルによる計画の進行管理が定められている。ご承知のように、政権が替わっている。新内閣となって1か月ほどしかたっていないが、これまでの内閣や政治というものから様相が全く異なっているように見える。総理自身がワーク・ライフ・バランスを捨てて働くと言っているのとおり、今後、国民生活に関わる制度や政策が矢継ぎ早に変わっていく可能性も高いと思う。個人的には、3年先どころか1年先に社会の流れがどう変わっていくか予測がつかないような気もしている。本計画にとっては、いきなり出だしから大きな変動要因が出現したと言えなくもない。

今後、当初目標の進捗管理はもちろん大切であるが、刻々と動いていく国全体の動向、施策の展開やスピード感、社会変動、鳥取市が置かれた環境の変化といったものに十分注意を払い、従来のPDCAサイクルによる指標とは別の視点で総合計画との整合性を適宜確認したり、軌道修正を図っていくといった配慮も必要な場面が出てくるのではないかとと思う。そうした場合に、当初の目標・指標に関わらず柔軟にかじを切っていくような柔軟

性や判断力が求められると思う。これについては、主管課である政策企画課が注視することはもちろんであるが、全庁的にそうした視点や感覚を強く持って取り組んでもらいたい。

【大橋委員】

前回、子育ての観点から10代と大学生あたりの意見をもう少し盛り込んでほしいという要望をしたところ、ワークショップを実施しているとの回答があった。ワークショップといえは、いわば意識の高い人たちの集まりであり、自発的に参加する方の集まりであるが、ワークショップでは参加者が受け身になる面もある。これから外へ出ていこうとしている10代の高校生について一番考える必要がある。小中学生は親の元で生活しており、自分の意思ではなく、住んでいる場所の学校に行っている。しかし高校生になると、自分の進路を考え、その先を考えるようになり、そのときにいかに県外に進学することが多いかという状況がある。そこをどう食い止めるのか、また進学した先から帰ってきてくれるかということを大事にしたいと考えている。

現在、小中学校では市から1人1台タブレットが配付され、高校に進学するときには1人1台パソコンを購入する。それらをもう少し活用し、教育関係などの所管を飛び越えて活用することで、こどもたちの意見をより広く大きな意見として取り入れてもらえるありがたい。

また、不登校に関しては、高校に進学したところまでは追いかけられるが、休学や退学、転校を経て不登校になった場合、そこから先は追えていないという状況があると聞いた。そのような子たちへの底上げ、救済、声に出せない、出てこない子たちの救済をもう少し進めてもらえると、郷土愛や「鳥取は住みやすい」「いいところだ」と感じてもらえるのではないかと思う。

【徳高副教育長】

不登校のその後の追跡や情報については、私も大きな問題であると感じている。鳥取市教育委員会は、義務教育の年代のケアや配慮、支援を全面的に行っているところであるが、その後の状況把握については、まだ十分にできていないところもあると考えている。関係機関もさまざまな部分で整備されているため、しっかりと連携を取りながら状況把握に努め、現在の小学校・中学校で行うべきことを整理していきたい。

【岡委員】

青年経済団体の立場として、これだけ多くのことを進めていく中で、事業の理解を広めたり、一緒に活動して良い方向に進めていくために、この青年経済団体をもっと利用していただきたいと思います。いろいろなことにアクションを起こしてもらい、共に良い鳥取市をつくれたらと思うので、さまざまな場面で声をかけていただきたい。

【奥谷委員】

盛りだくさんの施策で、いろいろな目標に向かって、これから良い鳥取市になっていくものと思う。さまざまな問題、環境などが目まぐるしく変化する中で、柔軟に、縦のラインではなく横のつながりが必要である。「これはこれ」「あれはあれ」といったように、どうしても取組が分断されている部分があるのではないかと思うため、柔軟に横のつながりが広がり、つながりが生まれ、良い動きが出てくると良いと感じた。

【尾坂委員】

市民政策コメントは5名の方から15件集まったということであるが、この数と内容について多いと考えるか少ないと考えるか、どのようにお考えか。

【西田地方創生推進室長】

前回の第11次総合計画を策定したときの市民政策コメントと比べると意見は少なかった。ただ、市民政策コメントの周知には前回以上にかなり力を入れて行った結果の意見であり、比較すると少ないが、貴重なご意見を頂けたと思っている。

【尾坂委員】

今回のような委員会を開いていただいたり、定期的に若者を集めてワークショップを開催したり、市民政策コメントを集めたりと、いろいろなやり方がある。それによって実際に政策に反映されているとは思いますが、「みんなで鳥取市をもっとよくしていこう」「これからの未来を一緒に考えていこう」という理想には、現実はまだ追いついておらず、乖離があるのではないかと思う。意見を集め、みんなで考えていく仕組みに関しては、今後一層力を入れていければよいと思うし、僕たちも協力して一緒に考えていきたい。

【岸本委員】

方向性や理念、まちの姿、基本方針などはきれいにまとめられており、各分野のやりたいことも並べられていると感じた。しかし、優先順位が書かれておらず、何にどう取り組んでいくのか、支援の配分がどうなるのかが見えないことや、KPIの本気度、何を達成すれば成功とみなすのかといった点、勝つための道筋を示す戦略書としての性格が十分ではないと感じた。地方創生アクションプランは戦略と書かれているので、計画ではなく戦略であると理解して今回の資料を読んだが、人口減少に対する課題も現状維持や対策という程度にとどまっているという印象を抱いた。何となくきれいに項目は並べてあるが、鳥取市として何に本気を出していくのかが見えない。やれることは無限にあり、では何をやめるのか、できないことは何かという点について、鳥取市の予算を前提として、お金の原資がここまでしかないということを踏まえ、できないことを明記することも、一つの戦略であると考え。観光も同様であるが、どこまでやれるのか、ここまではもうできないということを明記するのも、一つの本気度の示し方であると感じた。もう少し事細かく、成功へ至る道しるべを示したものが戦略書なのではないかという違和感を持った。

もう1点、先ほど尾坂委員が言われたように、市民参加が成立していないと感じている。この資料3の5名の方からの15件の意見という状況では、市民参加が成立しての総合計画とは言い難いと思う。計画が悪いのか、市民が興味を持っていないのか、期待しても無理だという諦めがあるのか、それとも情報が届いていないのか、広報が悪いのか、どこに課題があるのかを、もう少し追求する必要があるのではないかと思う。

先ほど、広報はしっかり行ったとの説明があったが、アナログからデジタルへ広報が切り替わっている中で、デジタルは無限に手段が選べるがゆえに情報が埋もれる側面がある。どれだけ情報発信をしても、情報量が多過ぎて埋もれていく。そのため、無限に情報を発信し続けないと、受け取る側にキャッチしてもらえないという難しさもある。自分たちが行っている以上に、実際には情報が届いていないということも考えられる。

この計画を一生懸命練ることは、皆がこの時間を費やした努力と成果と評価を、市民にもっと届け、理解してもらおうべきであるという意味でもあると感じた。

【久野委員】

この総合計画を以前のものと比較してみたが、随分見やすくなったと思う。総合計画

（答申案）の65ページの「協働のまちづくりの推進」の「地区公民館を拠点としたまちづくりの推進」については、自分としては非常にお願いしたい。さらに言えば、公民館職員の研修をどんどん実施していただきたいと思う。

気になったところは、資料3の6ページである。市民からの意見のうちボランティア活動に対する意見で、「行政も市民と共に行動を起こさなければ、住民任せでは進まなくなります。みんなのために共に頑張ろうという発想はますます少なくなると思います。」と書いてある。この意見は行政職員に対する期待であると思うが、その回答が「ボランティア活動を推進します」というレベルのことしか書いていない。よく考えると、協働推進課だけで答えられる話ではないと思う。この意見に対しては、職員課などほかの課も関わるべきところがあると思う。

自分は地元でまちづくりのボランティアや学校のボランティアをしており、今年は特に地元の小学校が閉校するため、ボランティア団体として閉校記念実行委員会を立ち上げている。そこにはいろいろな方が参加し、市や県の職員も入り、それぞれがボランティアとして動いている。人によって差はあるが、最終的には非常によく動いてもらっていると感じながら一緒に活動している。そこに、支所や公民館の職員ももう少しだけ動いてくれば、動いている人がお互いに楽になるところが多々あると感じており、そういったこともお願いしたい。「市民のボランティアに頼るだけではもう難しいのではないか」という意見はもっともであると思う。地元の自分の集落でも、婦人会が解散、青年部が解散するなど時代の趨勢だと感じて見ているが、そのような中で地域を盛り上げていくためにどうしたらよいかというのは、非常に切実な状況である。

もう一つ気になったところは、総合計画（答申案）の65ページの下の部分である。これ自体が行政を中心として取り組む施策であるから、あえて書かれていないのかもしれないが、下を見ていると、「みんなで取り組む」「市民がこういう動きをしてください」「事業者がこうしてください」という形で、市民、事業者の役割が示されている一方で、ここには行政職員が出てこない。この施策自体が行政が取り組むものであることは理解しているが、何か少し寂しい気がする。「事業者と市民がやるのか」と思ったところである。

【佐分利委員】

文化団体協議会としてここに来ているので、総合計画（答申案）の78、79ページの「文化芸術によるまちづくりの推進」を中心に見させていただいている。具体性に欠ける

ところがあり、令和3年に文化団体協議会からのアンケート調査の結果として、文化団体協議会の会長からも市長に対して話をしてきたと思うが、鳥取駅前の文化施設の構想がどうなっているのか分からないものの、今ある市民会館の近くに、総合的な300人程度の舞台と、展示ができる場所、資料の収集ができる場所、みんなが集い練習できる場所を造っていただきたい。今、広場ができつつあるが、シャッター街の象徴のような寂しいところになるのは残念で、将来ここに文化施設が建ったらよいと考えている。

風紋広場も鳥取駅前の整備構想の中でなくなるという話を聞いた。あそこも一つの文化施設としてとても好きな場所であり、私個人の私見としてはぜひ再考していただきたいと思う。

【米田委員】

総合計画（答申案）の41ページの「みんなでとりくむ」で、市民、事業者を分けずに一つにまとめて書いた意図を聞きたい。

また、先日、福岡市の市役所に行く機会があり、市内観光のバスに乗ろうと思って市役所に行ったところ、バスの受付が市役所の1階の中に入っていた。ぱっと見た感じでは、「えっ、本当にここが市役所か」というような印象であった。用のない方も自由にふらっと入ってきて時間を過ごしているような様子で、今まで自分が持っていた市役所のイメージがかなり変わったと感じた。観光とも一体化し、観光バスがそこから出ていくというようなこともあり、自分の市役所の見方が固まっていたのではないかと思った。大して用がなくても時間を過ごすために市役所に行き、自由に過ごせたり、お土産を見ることができたり、そういった自由さが市役所の中に鳥取でも実現できるとよいと感じた。

【西田地方創生推進室長】

「教育の充実・郷土愛の醸成」という基本施策で、市民と事業者の役割で分けたときに、この施策の中では事業者がなじむのかというところが疑問であり、市民や事業者みんなで子どもに対してどのように関わっていくか、育てていくのかと考えたときに、市民と事業者が一緒になって取り組んでいくということをここで示すべきでないかという考えからこの2つを集約した。

【尾坂委員】

先ほどの市役所の活用の仕方に関連して、高校生が卒業後に県外に出ること自体は問題ないが、その後、社会減のままでなく、戻ってきてもらえるような選択肢も増やせばよいとこの委員会を通じて強く感じ、ユースセンターを作りたいという気持ちが非常に強くなった。

実際に自分でユースセンターを作ろうとすると、商売として成り立たせることが難しく、そこに公的な何かが一緒にできればと考えている。鳥取市のまちなかを見渡したときに、市役所は高校生が下校して帰宅するまでに立ち寄る場所としてのポテンシャルが非常に高い場所であると思う。スターバックスやイオンのフードコートなど、この辺のまちなかで高校生が立ち寄る場所の中でも、かなり上位に位置する場所である。市役所は地理的にも優れており、スペースもあり、さまざまな社会人が立ち寄りやすい場所でもある。そのようなセンターをどこかに作りたいと考えたとき、市役所と何か一緒にできることがあれば、市役所の活用方法の一つとして検討いただければと思う。

【山根委員】

私たち高齢者は今、随分生きづらい世の中になっていると思う。デジタル化が進み、お店に行ってもどこに行ってもタッチパネルがあったり、何でもネットで手続きや情報提供が行われたりしており、アナログ世界の私たちには暮らしにくい情報社会になっていると思っている。もう少し高齢者でも暮らしやすく、暮らしていていいんだなと感じられるような鳥取市になってほしい。年を取ったら施設に行くのではなく、住み慣れた地域で、もう少し心優しく生活できる地域になればよいと思う。

【山下委員】

総合計画は大変見やすくなっていると思うが、具体性がどの項目にもあまり見えてこない点がやや気になる。良いものができているとは思いますが、これに向かってどのように推進するのか、各項目の具体的な点は各セクションでの推進ということになるのだろうが、全体として大まかなことしか書いていない。具体的なところは絵に描いた餅にならないよう、それぞれの課題にしっかり取り組んでいただきたい。

【山崎委員】

ボリュームが多く、いいものができたのではないかなと思う一方で、先ほどから話が出て

いる市民政策コメントの件数が気になっている。5名で合計15件というのは非常に寂しい。どういう目的でということもあるが、やはり知ってもらうことが一番重要である。良い意見も悪い意見も入ってくれば、人数も変わってくると思う。どのような形で市民に知ってもらうかが最も必要な点であり、それをどう伝えるかを明確に考えてもらえるとうれしい。

また、自分も身近な人に聞いてみたりするが、若い方に対してどう対応するかという課題がある。先ほどもあったように、高校生が卒業後に大学や就職で県外に出ることは、もはや止められない流れである。ただ、大学進学後に帰ってくる、一旦就職してから戻ってくるなど、地元に戻る人もかなりいるのではないかと考えており、多くなっているとも聞いている。しかし、一度県外に出てしまうと、特に学生などは、今はネットなどいろいろな手段を使ってはいるが、鳥取県内の情報が入ってこないという話を聞く。意識の問題もあるが、自分たちから探しにいかないと、キャッチしにいかないと入ってこないという面もある。県でも出身者に登録してもらい情報を届ける施策を行っていると思うし、鳥取市も同様であるが、やはり情報を積極的に発信し、キャッチしてもらうことが必要である。県外に出ていくこと自体は当たり前だが、どう意識を地元に向けてもらうかも考えていかなければならない。せっかくこのような良い計画、ボリュームのある計画があるので、優先順位をつけつつ、市民や若い世代にさらに広く知ってもらうことについて、もう一歩、二歩踏み込んで考えてもらえるとうれしい。

【前岡委員】

私は国府地域からの参加ということで出席しているが、国府地域未来会議の委員も務めている。この委員会に参加して、国府地域とは産業も違い、課題も違うと感じている。また、その課題に対する優劣や優先順位も異なっていると感じている。国府町は中心地域と違い、もはや待ったなしの対応や必要性に迫られている課題が多く、国府地域未来会議の委員も国府ならではの課題について意見や提案をしていこうと努力している。広範な課題があるが、地域ごとの特色も吸い上げていくように、また柔軟に対応していくような計画としていただきたい。

【竹本委員】

事前に資料を頂き、面白いと思って読ませてもらった。非常に分かりやすくなった。少

しぼんやりしているのではないかというような意見もあったが、私はこれでいいと思う。がちがちにびっしり書いた資料は多分誰も読まない。総合計画の検討を始めた時に、分かりにくいから分かりやすくしてくれと発言したが、とてもよくなったと思っている。これであれば市民の方に読んでいただけるのではないか。私はこれを全部読んだ。今回は非常に面白いと思った。構成が非常によくできている。

一つ意見として、若者がどんどん県外の大学に出て行って帰ってこないことはしょうがないと思う。しかし、鳥取にもいい企業があり、いろいろ就職先があることをアピールしていくことは必要だと思っている。それを鳥取市も一生懸命行っていることも知っている。銀行でも今人員が採りにくく、保護者に理由があると思っている。鳥取に住んでいる保護者が、「鳥取はいいところがないから、そっちで就職してもいいと思うよ」といったことを言う保護者も多い。多分、その保護者はこういった計画などは読んでいない。若者に帰ってきてもらうというのは、当然魅力のある就職先ということもあるかもしれないが、やはり郷土愛が大事だと思う。これを読んで、「鳥取もこんなことをやろうとしているのだ」と若い子に知ってもらえれば、「大学は外に出るけれど、帰ってきて鳥取市のために何かやってみようかな」と思うのではないか。

また、これを学生に見てもらうように、もっと簡単な、さわりのようなものを出せないだろうか。地域の学習などがあるが、そういったところで見てもらってはどうか。今はネット社会なので、興味があれば皆パソコンで調べる。さわりの部分でよいので、全体的に「こういうことをやっている」ということを見てもらい、興味があればここに貼ってあるものを見てもらおうという形にする。これは多分高校生なら読むと思う。以前のものは、私は全く読まなかった。字ばかりで一つも面白くなく、難しいと思っていた。しかし、これは非常によくできていると私は思っている。ぜひこれを学生に、中学生は少し難しいかもしれないが、例えば高校生や大学生に興味を持ってもらうような簡単なものを作り、学生に配付してみてもどうか。そういう人たちが、多分もう一度鳥取に就職で戻ってくるのではないか。こういうよいものを作られたのであれば、今がチャンスだと思うので、ぜひ検討していただきたい。

【西田地方創生推進室長】

ご提案いただいたような内容で、簡単にまとめた概要版を作ろうと思っている。中学生でも理解できるように、鳥取市がどのような取組をしているのかを分かりやすく示し、

鳥取市の取組、鳥取市の将来について子どもたちにも考えてもらえるような教材にできるものを作っていきたいと思っている。

【下田議長】

委員の皆さまからそれぞれ意見をいただいた。本日は大きな修正等はなかったので、総合計画（答申案）についてはそのままでもいいか。

【出席委員】

意義なし。

【下田議長】

特に意見はないようなので、総合計画（答申案）については、このままで進めたい。要望等については、今後、市のほうで本日の意見、要望を踏まえて生かしていただきたい。それでは、深澤市長から回答ができる範囲で全体的な総括をお願いしたい。

【深澤市長】

長時間にわたり、いろいろなご提言、ご意見を頂いたことに改めて感謝申し上げます。先ほど下田議長から、答申案はこの書きぶりでよいかどうか諮っていただき、特に意見等はなかったようであるので、この案で答申をいただけるのではないかと考えている。

佐分利委員がご発言された、文化ホールや展示施設等について、以前から文化団体協議会から要望いただいているところである。現在、鳥取駅周辺のリ・デザインの検討を進めており、今年度中にはより具体的なものになってくると思う。文化芸術施設の在り方についても考え方等を取りまとめたところである。来年度、第12次鳥取市総合計画がスタートするが、同時に、駅周辺のより具体的な考え方等について検討し、取りまとめていく段階になると考えている。随時、そのような鳥取市の考え方や方針等を示し、また意見を頂くことになると考えている。風紋広場についてもいろいろと意見を頂いたが、それに代わるようなスペースが駅周辺にも確保されることについて、検討を進めていく必要があると思う。

また、市民政策コメントが5名から15件というのはどうかという点について、いろいろな見方があろうかと思う。これから答申をいただき、その後、先ほど話のあった概要版

等も含め、分かりやすい形でこの総合計画を広く市民に示していくことが必要であると考えている。計画そのものがどうかというより、そこに記述してある内容、考え方に沿って、具体的にいろいろな事業を進めていくことが重要である。その際に、市の考え方だけで進めるのではなく、基本的にはこの総合計画に記述してある考え方に沿って進めていくが、随時、いろいろな場面で市民の意見も頂きながら、一緒になって進めていくことが重要であると考えている。

また、特に高校等を卒業して県外に出て、なかなか戻ってこない若い世代にも、この総合計画について知ってもらうことが大切ではないかという意見を頂いたが、まさにそのとおりであると考えている。これから鳥取市の未来を担っていくのは若い世代であり、若い世代に対して、鳥取市がどのような考え方でまちづくりを進めようとしているのかを、いろいろな形で発信し、届け、理解してもらい、意見があれば寄せてもらうことが、今後ますます重要になっていくと考えている。

限られた紙面で全てを書き尽くすことは難しい。また、この時点で一定の形をつくっても、社会が短いサイクルでどんどん変化していく中で、それを10年間の基本構想として固定することは難しい。進捗管理等を随時行っていくことが、来年度以降必要になってくる。いろいろな形で意見をいただくことはもちろん、本日いただいた様々なご意見、ご提言をしっかりと受け止め、これからのまちづくりに最大限反映させていきたい。

5. その他

【西田地方創生推進室長】

先ほどお話があったとおり、本日いただいたご意見等を踏まえた総合計画（答申案）を、明日の答申で市長に提出されることで了解いただけたと思う。約2年間、いろいろとご議論いただき、答申までたどり着くことができた。大変感謝申し上げます。

6. 閉会